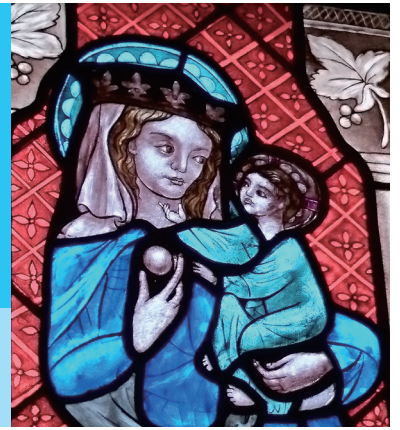


『自分を愛するようにあなたの隣り人を愛せよ』 日本聖公会京都教区

季刊 フィル・ザ・ハーツ

Fill the Hearts

Harassment Prevention Committee 日本聖公会京都教区 ハラスメント防止委員会
〒602-8011 京都府京都市上京区烏丸通下立売上ル桜鶴岡町380



性的少数者は「お行儀良く」しないとダメですか？

日本聖公会 中部教区司祭 アンブロジーア 後藤香織

わたくしが聖公会の中で、トランズジェンダーであることをカミングアウトしたとき、様々な攻撃や嫌がらせを受けました。そのような反応はあらかじめ予測出来ましたが、一生カミングアウトをしまいと心に誓っていたのですが、自分の堪え性のなさを恨んだものです。

そんな非難の連続の中で、あらかじめ予測出来なかった、いや予測出来ていたのかも知れませんが、そう思いたくなかった非難に、身近な「人権派」の人たちからのわたくしの行儀が良くないことを指摘する言説がありました。普段から、移住労働者や野宿労働者の人々の人権を守る働きをしているしている人たちだから、わたしの「人権」にもしっかりと寄り添ってくれるのでは、と期待していたのでしょうか。残念ながら、その人達の言葉に、傷つけられることはあっても、ほっとさせてもらえることはありませんでした。

差別をすることは許されることではないと、誰もが分かっています。ですから、わたしたちは誰かを差別するときに、自分の言動は差別では

ないと思いつつもとします。その根拠になるものとして、差別をする相手の発言や行いのあら探しをし、それを取り上げて攻撃を開始するのです。

誰もが差別者にはなりたくはありません。ですから、差別される側の問題をことさらに取り上げて周知させるのです。この人は「差別されてもしかたがない」人物なのだ。差別の出来事の周りに、いつもこのトーンポリシング^{※1}が飛び交います。

LGBTや女性、障害者などの差別される側が、力を持った差別をする側に対して、相手の気分を書さないうように、心証良く礼儀正しく接しなければならぬ、ということ自体抑圧ですが、差別されていることへの憤りは、揚げ足を取られないように、常に押し殺さなければならぬのが、残念ながら現実です。

自分が不当に扱われていることへの憤りの感情は決して否定されるべきではありません。「ストーンウォール・イン^{※2}」で「ヘアピンの落ちる音が世界に響き渡っ」て、LGBT

への差別撤廃運動が始まり、現在のようになり、LGBTが人権の課題として取り上げられるようになりました。抑圧から解放されるためには、強い動機が必要になります。憤りはそのための大切な力なのです。押しつぶすのではなく、傾聴が求められているのです。

はたして誰かの人権が侵害されたとき、その人がたといけ好かない奴であっても、お行儀が悪い奴であつたとしても、それを仕方がないと思わずに、差別された人にもたしは寄り添えるのでしょうか。

どんなにお行儀が悪い嫌な奴でも、その人の人権が侵害されるたびに、全力で寄り添ってゆくそんな教会を目指して、一緒に歩んで参りたいと思います。



※1 トーンポリシング = 論点ではなくその話し方や言葉遣い、態度などを批判すること。

※2 「ストーンウォール・イン」= ニューヨーク市のグリニッジ・ヴィレッジにあった性的マイノリティー達が多く集まるバー。

すべての命の源である神さま

お祈りの最初には「天の主なる神さま」などいろいろ言い方がありますが、「すべての命の源である神さま」という言葉も耳にします。この世のすべての命が神さまにとって、は等しく大切なものであること、神さまの愛を感じる表現です。

この言葉に象徴されるように、神の愛に支えられて教会は様々な背景や生き方をもつ人たちが安心して集まれる場所です。が、残念なことに、多くの性的少数者と言われる人たちが教会に行きたいのに、行っていない



のにツラすぎるという思いをしている現実にはそれほど解消されていません。聖書にある「同性愛を認めない」ような記述についてはどう理解すべきなのかはよくわからないのですが、神さまの愛はそんなことは越えているように思います。わたしたちは、異性愛者である自分と、同性愛やほかの様々な性的志向、性自認をもっている人たちとの間に何か本質的な違いがあるのか、よく考えてみる必要があると思うのです。

生理的な抵抗感があるとか、幼いころから教えられてきたのでその枠



から抜け出すのが難しいなどがあっても、神さまに招かれて、短いこの世の一生の間にもともに教会に集うことを許されたことに変わりはないはず（そしてこの世から去ったあとでも）。思考の枠組みを変えるのはほんなことでもエネルギーが必要ですが、せめて神さまの前では同じということに意識を向けたいと思います。

「約束の虹ミニストーリー」というところがまとめた『なんで教会がツ

ライのか考えてたら出来た 性理解のためのブックレット』という小冊子があります。性的少数者について理解していると思われる方もそうでない方もぜひ読んでみてください。

<https://yakusokunoniji.amebaownd.com/>

教会がどんな人にもセーフスペースであることに協力して近づいていければと思います。そしてわたし自身にあるマイクログレッション（無意識の差別）も意識し続けていきたいと思います。

日本聖公会 正義と平和委員会 ジェンダープロジェクト
大阪教区 聖贖主教会信徒
篠田 茜

